



BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0への論点整理

第3回 部会2 在り方部会2020.12.22

BLCJ

目標(1) BIMの部位・部材データの属性情報の標準化の具体のイメージを示し、その段階的な公表を目指す

部会2の活動	2020年度(R2)		2021年度(R3)		2022年度(R4)	2023年度(R5)	2024年度(R6)	2025年度(R7)	
	10~12月	1~3月	4~9月	10~3月					
適用標準	BLCJ BIMオブジェクト標準 ver1.0の適用				BLCJ BIMオブジェクト標準 ver2.0を適用				Ver3.0
ver2.0の定義・公開の検討	ver2.0を段階的に公開				修正	改定(又は拡張)合意			
BLCJ BIMオブジェクト標準 ver2.0の検討/将来ver3.0検討						ver3.0の検討(時期未定)			

1. BLCJ BIMオブジェクト標準ver1.0(次のスライド参照)

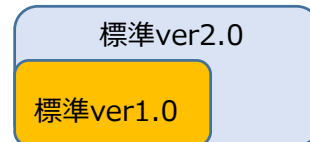
- ☐ BLCJ BIMオブジェクト標準ver1.0は、BIMライブラリ技術研究組合の前身であるBIMライブラリ技術研究組合の総会(2018年10月4日開催)において、組合員の間の合意として確立された。(当時はBLC BIMオブジェクト標準であったが、BLCがBLCJに移行したことに伴い、BLCJ BIMオブジェクト標準ver1.0に変更。対象範囲は企画・設計から施工・維持管理を含むものとなっている。)
- ☐ この標準ver1.0は、NBS BIMオブジェクト標準を基本に、日本で必要な情報を加え、主に製品系を対象として属性情報の標準化を整理したものである。

2. BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0(標準ver1.0+建築確認との連携+標準仕様書との連携等)

- ☐ 2019年度にBIMライブラリ技術研究組合が設立された時の目標として、BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0(以下「標準ver2.0」という。)の確立を2021年度に計画していたが、この段階では、標準ver2.0は、標準ver1.0に対象品目と属性情報項目の拡充を行ったものであった。
- ☐ しかし、「I. 方針変更の背景」に示す4つの要因に示されるようにBIMを活用した円滑な情報連携には、
 - ・形状情報より属性情報の整備を優先すべきであること
 - ・現状では社内業務の効率化の観点から企業単位で属性情報等の整備が図られているが、建設プロセスの各種業務の効率化をに加え、建築確認や標準仕様書においてBIM活用を図るためには、広く共通した属性情報の標準が普及する必要があること
 - ・民間開発のBIMライブラリが複数存在し活用されている現状を鑑みると、**業界の標準とする属性標準を早急に示す必要があり、その内容に、建築確認での活用や標準仕様書との連携機能を持つ属性情報標準を盛り込んだ(標準ver2.0)を重点的に検討し、2021年度末までにその確立を目指すこととする。また標準ver2.0には標準ver1.0に含まれていないオブジェクトも対象に加えるものとする。**

3. 標準ver2.0の確立に向けて

- ☐ 標準ver2.0の確立に向けて、以下のことが必要と考えられる。
 - ・BLCJ内の各部会が連携して研究活動を実施すること
 - ・特に属性情報の標準の検討に関して、**先行して研究を進めている団体・組織等との協力関係を強化する。**
 - ・従来の検討組織(設計事務所、ゼネコン、サブコン)に加えて、BIMソフトウェアベンダー、メーカー等との連携を促進すること
- ☐ 国土交通省建築BIM推進会議の部会2が示す**標準を目指すためには、「透明性」「公平性」「中立性」「用語の定義の統一」「標準としての有用性」「標準の普及度」等を満たす必要がある**と考えられる。また**ver2.0の定義の明確化と段階的公開について2021年度初めまでに整理**する。



BLCJ BIMオブジェクト標準Ver2.0に向けての論点整理(案)

- 属性情報項目(行)×情報内容(列・タイプ、桁数等等)
→建築確認と仕様書との連携に必要な属性情報項目は含む。
- どの範囲のオブジェクトを対象とするか。
→建築物に使用されるオブジェクトを対象。住宅を除く。商業用、産業用は完璧は困難。BIM化されない範囲は除く。空間オブジェクトはどうするのか。
- どのステージ(S0~S7)までを対象とするか。
→議論はS5,S6,S7を含むが、現実的に確定はS4までか。
- コードを軸とした連携が可能になる。
- オブジェクトの「用語の定義の統一」「透明性」「公平性」「中立性」等広く利用されるための基礎的性能を具備する。
- Ver1.0は製品タイプに限定し、合意は組合意の間。
Ver2.0は建築物に使用されるオブジェクトを対象とする。
Ver3.0は都市・まちづくり・新技術に対応できるオブジェクトを対象とする。
- Ver2.0ができると建築活動がどのように変わるのか。
→建築確認と仕様書との連携に必要な属性情報項目は含むことで、
☐ 企業の枠組みを超えた標準化・コラボレーションが可能になり、
→コード化を軸とした各ステージをつなげることで
☐ 建築生産活動が活性化され
→基本的な性能を具備することで、
☐ 幅広い利用者に利用の安心感を与える。